

第 48 回霧ヶ峰自然環境保全協議会議事録（確定稿）

1 日 時

令和 8 年 6 月 11 日（木） 午後 1 時 30 分～午後 2 時 45 分

2 場 所

諏訪合同庁舎 5 階 講堂

3 出 席 者

24 団体（28 名）

4 会議内容

開会

【事務局：山本事務局長】

定刻となりましたので、ただいまから、第 48 回霧ヶ峰自然環境保全協議会を始めさせていただきます。私は本日の進行を務めさせていただき、本協議会事務局長の諏訪地域振興局環境課長山本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日は信州大学農学部から 3 名の学生の皆様が、会議の傍聴にお越しになっています。これをきっかけに、将来、美しい霧ヶ峰を次世代に引き継ぐ役割を担っていただければと期待しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは初めに、大窪座長よりご挨拶いただきます。大窪座長、お願いします。

【大窪座長】

昨年度末に土田前座長から座長を引き継がせていただきまして、今回が初めての協議会になります。かなり不慣れな進行となると思いますがよろしくお願いします。

それでは本日は、お忙しいところ、ご参集いただき、ありがとうございます。本日の協議会では、令和 7 年度事業報告と令和 8 年度事業計画(案)について協議させていただきます。また、その他 4 つの報告事項が予定されています。皆様から忌憚のない意見をいただき、霧ヶ峰の保全・再生についてよりよい方向へ進めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局：山本事務局長】

ありがとうございました。それでは、規約第 9 条に基づきまして、大窪座長に議長をお願いいたします。

【大窪座長】

それでは、2 の協議事項に入ります。第 1 号議案「令和 7 年度事業報告について」事務局から説明をお願いします。

【事務局】

(資料 1 - 1、1 - 2 により説明)

【大窪座長】

ありがとうございました。令和 7 年度も、いまご説明いただいたとおり多くの皆様のご協力のもと個別作業が実施できました。また、電気柵等の設置もさせていただき一定の効果があったということで、皆様のご協力の賜物と思っております。改めましてご協力いただきありがとうございました。それではただいまの説明について、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

【(一社)諏訪観光協会 有賀氏】

資料 1 - 2 写真ですが、裏面の開花状況③と④は富士見台と思われます。①は車山肩です。②ももしかしたら車山肩かもしれないです。

【事務局：山本事務局長】

ご指摘のとおりかと思しますので修正させていただきます。申し訳ございません。

【霧ヶ峰を愛する会 飯田氏】

ササは在来種で、上を切っただけではまた出てくる。この場合、駆除の対象になりますか。私はササがあっても構わないと思います。

【事務局：山本事務局長】

ササの刈取の関係ですが、優占種の刈取ということで、ササが生えすぎている状態ですので、刈取っています。ササの繁殖による森林化を防ぐ目的でも行っています。

【霧ヶ峰を愛する会 飯田氏】

はっきり言って切っても全く変わらないです。もっと広がります。在来植物をそこまでする必要があるのでですか。

【事務局：山本事務局長】

今現在、非常にササの勢力が強く、生物多様性の面から多くなっているということで刈取をしています。森林化については一定の効果があると思いますが、かなり大変な作業であるとは認識しています。そういったなかで、協議会で行うことができる対策の一つとしてボランティア作業を行っています。もっと効果的な方法があるかもしれませんが、当協議会のボランティアの人員、費用の関係で出来るところがこのようなササの刈取作業になっているということをご理解いただきたいと思います。

【霧ヶ峰を愛する会 飯田氏】

自然は常に遷移するのです。今まで木を切ったり火をつけたりして草原にしていたのが、長い年月森林化してしまった状態はもう止められないと思います。それとササはいくら刈っても地下茎は残るので、何の効果ありません。むしろ鹿に食べてもらった方がよいですし、それに関連してササを刈ってニッコウキスゲの種を植えた後はどうなったのか教えてください。

【事務局：山本事務局長】

ニッコウキスゲの種を植える活動はされていて、そこではニッコウキスゲが生えてきているという状況です。ササを刈った後に種を植えることにつきましては把握しております。

【霧ヶ峰を愛する会 飯田氏】

ササを刈って種をまいて、その後どうなっているかが問題です。私のうちの庭の地下茎の上に種をまいても、ササの方が勢いが強く育たない。大変な労力だと思う。はっきり言って無駄なこと、止められないと思います。百歩譲ってササを減らしたいと思ったとしても、重機で掘り返して地下茎を切り取らないと無理だと思います。非常に無駄なことだと私は思います。

ササが増えることは決して否定してはいけないと思います。森林化と言えばそれまでですが、地球の環境においては自然の遷移です。ある時からササが衰退して草原になることがあるかもしれませんが、それは100年、1000年単位で考えないといけません。一生懸命労力を使って切っても翌年には新芽がでていだけで、そういうことを考えて私は無駄だと思います。

【大窪座長】

個別作業を実施しており、車山肩のササの刈取りで、この協議会が始まってから土田前座長と私でモニタリング調査をしてきております。もう十数年二人で、今は引き継いで近年は私がやっています。ニッコウザサを刈取ってニッコウキスゲや他の草原性植物が増えたというデータがありまして、それに基づいてこのような草原再生事業を行っています。

【霧ヶ峰を愛する会 飯田氏】

ニッコウキスゲの種をまいてどれだけ繁茂し、その後どうなるのが問題です。

【大窪座長】

種の播種は個別作業では行っていません。そこにあるニッコウキスゲからこぼれた種か

らの実生はあるでしょうが、個別作業の中ではニッコウキスゲの播種は行っておりません。

【霧ヶ峰を愛する会 飯田氏】

何年かしたらササ化してくると思います。それはどうなっているか教えてください。どっちが優勢かということです。

【大窪座長】

この個別作業をしている場所では、全面的に毎年刈る労力がないので2年に1回位の間隔でニッコウザサの刈取をしていただいております、ワレモコウのようなニッコウキスゲ以外の草原性の植物が増えて、維持されているモニタリング調査のご報告をこの協議会でもさせていただいております。また機会があればそういったご紹介をさせていただきます。

【霧ヶ峰を愛する会 飯田氏】

ササを刈取ったあとに、またササは当然出てくるでしょう。

【大窪座長】

ニッコウザサも草原の群落の構成種なので、ニッコウザサを駆逐するためにやっているわけではないです。

【霧ヶ峰を愛する会 飯田氏】

気象の関係もあるということを忘れないでください。

【大窪座長】

この協議会で刈取の効果は確認をさせていただいております、これまでも実施を継続してきたという流れです。

【霧ヶ峰を愛する会 飯田氏】

外来種ならまだしも在来種はやる必要ないと思います。

【事務局：山本事務局長】

ご意見をいただきましたとおり、ササの刈りは大変な作業ではあります。もちろん掘り取りの作業についてはもっと大変です。協議会での作業として、毎年出てこないようにすることはできない状況ですが、生えすぎている部分をなんとかしようということで、協議会でできる範囲の作業として進めており、効果がないということであれば見直しを検討する必要があると考えています。

【霧ヶ峰を愛する会 飯田氏】

ぜひ見直しを検討してください。

【大窪座長】

今までのモニタリング調査では効果はあり、ニッコウキスゲの花畑が再生して維持しております。モニタリング調査を今年度も継続していくということで検証していけばよいかなと思いますがいかがでしょうか。

【事務局：山本事務局長】

モニタリング調査を実施しながら進めていきたいと思っています。

【霧ヶ峰を愛する会 飯田氏】

言い出した人が評価をするので、意味がなかったとは絶対に言わないです。そういうことも知っていてください。

【大窪座長】

他にご質問やご意見はございますでしょうか。それでは、特にご意見等がなければ、協議事項第1号議案についてお諮りします。令和7年度事業報告について、事務局の説明のとおりにしてよろしいでしょうか。

（異議なし）

異議なしということで、ありがとうございます。それでは続きまして第2号議案令和8年度事業計画案について事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

（資料2-1、2-2、2-3により説明）

【大窪座長】

ご説明ありがとうございます。それではご意見ご質問がありましたらよろしく願いいたします。

【環境会議・諏訪 塩沢氏】

北大塩財産区にも所属しており、車山のフランスギクとヘラバヒメジョオンの除去作業にも参加しています。フランスギクの駆除範囲を決めて駆除していますが、範囲外がものすごい。フランスギクは中にあまり入らないので、今回の作業では無理かと思いますが、機械で道端だけでも刈ることはできませんか。元々の希少種があるので機械は使わないと聞いた

ことがあります、あまりの多さにがっかりします。

【事務局：山本事務局長】

フランスギクは抜き取りをメインで実施しています。地下から取るのは作業的には難しいという認識でいます。もし効果的な方法を知っている構成員がいれば教えていただきたいと思います。

【大窪座長】

今の作業を企画していただいた中では、他にも在来の草原性植物が生えているので、一律に刈り取るとそういった在来種も刈り取ってしまうため今のところはフランスギクをねらって抜き取りでしています。おっしゃられるようにフランスギクの分布範囲が広いのでお気持ちは分かります。

【大窪座長】

それでは特に他にご意見等なければ、協議事項第2号議案についてお諮りいたします。令和8年度の事業計画（案）について、事務局の説明の通りとしてよろしいでしょうか。

（異議なし）

異議なしということで、ありがとうございました。ただいま第2号議案について議決されましたので、資料2-1、2-2、2-3の案の字を削除お願いいたします。

【車山高原観光協会 早川氏】

車山の方で鹿の電気柵を設置していますが、現場から鹿が柵を飛び越えて入っているという報告があり困っています。他の地区で行っている方で対処方法があれば教えていただきたいです。

【事務局：山本事務局長】

霧ヶ峰自然保護センターからも鹿が柵に慣れてきたり、飛び越えたり、突っ切ってしまうという事例があると聞いています。例えば今年度は低いところの密度を高めたりしているところですが、シカも頭がよく慣れてしまします。また特定のシカが入ってしまうこともあると聞いています。

【霧ヶ峰を愛する会 飯田氏】

柵の上の方にバラ線をつけると効果があるそうです。

【(一社)諏訪観光協会 有賀氏】

当センターでも試行錯誤しているところです。常時見回りもしている状況です。以前は

電線を4本張っていて、上から飛び越えるものもいるとは思いますが、メスや小鹿は角が無いので下からくぐり抜けることが多いようですので、下草にあたらないようにしつつ下から1～3段目は間隔を狭くすることを試みているところです。あとは隙間があると入ってしまうので、日々チェックすることが必要と思います。

【大窪座長】

電気柵を高くするのは難しいですが、本州では2mの高さが必要ということで、マニュアルを作成している県もあります。柵の下をくぐられないようにするために、網目状のナイロンネットを貼っているところもあります。

【大窪座長】

続きまして、審議は終わりました、3の報告事項に入ります。時間の都合上、報告(1)から(3)は一括してご説明差し上げます。最後に質疑をお受けいたします。

まず報告事項、(1)新規入会について、事務局の方から説明をお願いいたします。

【事務局】

(会員名簿により説明)

【大窪座長】

次に報告事項(2)令和8年度構成団体の活動について事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

(資料3により説明)

【大窪座長】

続きまして、報告事項(3)令和8年度個別作業のボランティア募集について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

(資料2-2により説明)

【大窪座長】

当協議会では、霧ヶ峰自然保全再生実施計画に基づきまして外来種駆除および草原再生作業を毎年実施しておりますが、今年度は9月上旬まで合計8回の作業を計画しております。その内7回の作業ボランティアを募集しているところです。1回目の作業は、これまでのご案内しておりましたとおり6月16日に実施予定です。皆様のご参加はもちろんのこと、一

般の方々へのお声がけ等も含めて、引き続き皆様のご協力を賜りたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、報告事項(1)から(3)の説明についてご意見ご質問がありましたらよろしくお願いいたします。

【霧ヶ峰を愛する会 飯田氏】

直接関係ありませんが、静岡県立大学が霧ヶ峰で調査をしていると聞きましたが、本当ですか。

【事務局：山本事務局長】

事務局では承知しておりませんが。

【霧ヶ峰を愛する会 飯田氏】

もしやっていたら協議会に誘ってほしいです。

【大窪座長】

それでは続きまして報告事項(4)その他でございしますが、はじめに出席報告時に事前にいただいたご意見について事務局の方から回答をお願いいたします。

【事務局：山本事務局長】

事前にいただきましたご意見についての回答を事務局から申し上げます。

1つ目ですが、「外来種除去作業は地権者中心で行われているが、高齢化や人数不足もあり、霧ヶ峰で全体の保全を目的としているので、保全協議会に加盟している多くの団体にも積極的に参加していただけるのが望ましいと思う。」でございします。環境会議・諏訪様からのご意見、ご質問でございします。

こちらにつきましては、先ほど大窪座長もおっしゃったとおり、当協議会の構成員の団体の皆様も外来種駆除や草原再生保全作業にご参加いただければと思います。このボランティア参加の状況でございしますが、コロナ禍で大幅に参加者が減少してしまったような状況でございします。徐々に参加者数は回復をしてきてはおりますが、コロナ禍前の水準までには戻ってないというような状況でございします。

作業は手作業に頼るものが多いので、構成団体の皆様のご参加とともに、お知り合いの方がいらっしゃれば、そういった方へのお声がけもお願いしたいと考えております。

2つ目でございしますが、「霧ヶ峰は草原として維持していくのか。手を入れず、雑木林を成長させていくのか、方向性を知りたい。」ということでございします。IC 霧ヶ峰観光商業様からいただいております。

こちらについては、当協議会の「霧ヶ峰の今と未来～霧ヶ峰再生のための基本計画～」で霧ヶ峰保全再生計画を定めているところです。ここでは、「昭和 30 年代前半の姿を多く留めている、現在の霧ヶ峰の姿を保全し、より望ましい植生等を再生していくことにより、霧ヶ峰の自然保全を進めるのが妥当」ということとされています。その上で、草原、湿原、樹叢と森林の調和を考えた区域割りを示しています。ですので草原は草原の場所として、湿原は湿原の場所として、樹叢と森林は樹叢と森林として維持していくという考え方でございます。自然林についてですが、それ以上拡大させないよう、周辺における対策をとっていくことを原則とするとしているところです。ですので自然林につきましては拡大させないという方向性です。

3 つ目でございますが、「登山道の一部が踏圧などによりえぐられてぬかるみができ、それを避けるために草原内に道が出来てしまった、裸地化してしまった箇所があります。霧ヶ峰パークボランティア主体で登山道整備を進めることができないか検討させていただきたいです。」ということで（一社）諏訪観光協会さんからいただいているところです。こちらにつきましては（一社）諏訪観光協会さんから説明をお願いいたします。

【（一社）諏訪観光協会 有賀氏】

霧ヶ峰の登山道状況についてという資料をご覧ください。皆さんご存知のとおり霧ヶ峰は非常に多くの方が登山道を歩かれています。先ほどあったように湿原の周りは木道が整備されて日々修繕、整備されている一方で、登山者の踏圧で、どんどん土が削られて流されていって、例えば図 1 のように岩が大きくむき出しになってかなり深くえぐれてしまったところ、さらにそこが硬くなってくると雨が水の流れが激しくなってさらに削られてしまうという状況が霧ヶ峰のいくつもの場所にあります。図 3 ○で示したところが懸念されるところで、図 2 のようにぬかるみを避けるために道が広がってしまったり、裸地化してくると植物が生えにくい環境になって回復に相当な時間を要するような状況になってしまいます。その中で少しずつでも整備をしていければと思いますが、登山道のことは行政の方が進められているところもあると思うのですが、より多くの力が必要かなというところです。

対策として、近自然工法と呼ばれる技術が最近全国的に国立公園とかそういったところで広がってしまっていて、基本的に人工的なものではなくて、木材とか、木の幹とか石を地面に組んでいって、それを固定していく、自然になじませるというやり方です。そうすると植生も回復してきて、結果的に登山者も歩きやすい道になるというやり方です。

できれば霧ヶ峰でもこのようなやり方で整備を進めていく必要があると思います、できれば講師に来ていただいて進めるのがよいと思いますが、時間がかかるかと思うのでできるところからやっていくのはいかがかという提案です。

図 3 は雨が降ったときにぬかるんでいる登山道の様子で、場所が図 7 が奥霧のバイオトイレから物見岩の方に進んだところです。ここは雨の後はすぐぬかるんで板が浮いてし

まって、歩けないような状況になっているのですが、乾いてるときは図 4 のような状況です。そのぬかるみを避けるために図 5、二つ矢印を記したんですけど、本来の登山道でないところに道がいくつもできてしまっている状況です。その手前が図 6 ですが、本来の道の横にもう一本道が出来ていて、登山ガイドからはここは歩けず、どうしようもないので横の道を歩くしかないという声をお聞きしています。その中でこの板を置いたのがぬかるみの対策で、もしかしたら夏に活動されている自然保護指導員、信州大学とか千葉大学の学生さんが対処のために置いた可能性があるのですが、確認しながらですが、板を置いたままだとまた浮いてきてしまうので、例えば図 8 のように、端の方に丸太を打ち込んで、ぬかるんでいるときだけはそこが歩けるようにするといった対応を何かしらできないかと考えております。実際やるにしても登山者が多い夏はできないのと必要な許可申請を受けた上で、人数が必要なので霧ヶ峰パークボランティアの皆さんと一緒に、修繕は秋以降にできればというふうに考えております。以上です。

【事務局：山本事務局長】

先ほど行政の方で整備というお話も出ましたが、一般的には補助金を活用して登山道整備をしているところかと思います。ご提案として承ります。

【霧ヶ峰を愛する会 飯田氏】

道路の補修について、丸太を植えるのは大変だと思います。ウッドチップを敷くのはどうでしょうか。

【(一社)諏訪観光協会 有賀氏】

元々水の流れがある場所なので、ウッドチップのような軽いものは流れてしまいそうです。近自然工法ではなるべく太い木の幹を使います。そうしないと段々傷んでくるので、できればしっかりとしたものを打ち込み地面に馴染むようにできればと考えています。

【霧ヶ峰を愛する会 飯田氏】

金額がかかると思います。学者なら良いというかもしれないが、行政では勘弁というのが当たり前ではないでしょうか。

【大窪座長】

他にご意見ご質問ございませんでしょうか。それでは報告事項(4)その他についてはこれで閉じさせていただきます、その他皆様から報告事項等がありましたらお願いいたします。

【KiNOA 合同会社 山川氏】

資料 2-1 の補足ですが、私どもは 3 番の項目の霧ヶ峰エコツアーリズムモデル構築計画を実施している団体になりますが、今年度 10 月にインタープリターの養成講座を例年に従いまして計画をしております。まだ日程の方が詰まっていないので、今回ここに提出することができませんでしたが、開催することは間違いなく計画しておりますので、今年度もよろしくをお願いしたいと思います。

【IC 霧ヶ峰観光商業会 藤原氏】

ここにおいでの皆様方には霧ヶ峰の自然保護に色々な作業をしていただけて感謝しております。私たちが 50 年霧ヶ峰の状況を見てきて、この先どうなるのかと思って質問をしたところです。先ほど事務局長から説明を受け、よく分からなかったのですが、昭和 30 年頃の状況に戻したいということでしょうか。

【事務局：山本事務局長】

この計画自体が平成 20 年頃のもので、その頃の状況を維持していくというものです。

【IC 霧ヶ峰観光商業会 藤原氏】

私たちが 50 年前から状況を見ていますが、現在全く状況が変わってしまっています。今までは草原が売りだったが雑木林になってしまったところがあちこちにあります。2000 年前後に牧野組合さんが中心となって「雑木やつつけ隊」を作って池のくるみからずっと木を切ってもらっていました。その前は池のくるみから下は雑木林になっていました。車山へ行く方の道も雑木林になっていました。そこは車山の皆さんが切ってくださり草原に戻して、そこは長い間地元の皆さんが火を入れて草原を維持されていました。ですが地元の状況で今は火を入れられず雑木が増えました。もし出来ましたら、これ以上増えないように、雑木処理を真剣に考えていかなければいけないと思います。そこを是非お考えいただきたいと思います。

また、先ほど霧ヶ峰を愛する会の方からササの刈取はしないほうがよいとおっしゃったが、ササは増えすぎて本当に困っている。先生方からどうすればよいか知識をもらえると、思って話を聞いていましたが、先ほどのやり取りを聞いているとどうしたらよいかご指導もないようです。私たちは車山近辺のササを刈っていますが、私は効果があると思います。鷲ヶ峰から三峯山にかけてササ山になってしまっています。野辺山もササだらけの状況です。30 年前くらいまで車山もササがなかったが、ここ最近急に増えてきています。ササの駆除方法については是非ご指導いただきたい。

雑木を切ることと併せて何かお考えはあるのでしょうか。

【事務局：山本事務局長】

現状、雑木処理は協議会の人員と予算の面から難しいと考えています。本来ですと平成

20 年頃には協議会は公園管理団体を設立して、収益を霧ヶ峰の環境保全に充てるというのが目指す姿でしたがうまくいっていない状況です。今考えられることとしては、難しいかもしれませんが、市町村の補助事業に併せて何かできないかと考えています。

【IC 霧ヶ峰観光商業会 藤原氏】

草原維持していこうとはお考えになっているということですか。

【事務局：山本事務局長】

おっしゃるように、自然林をこれ以上増やさないようにするよう考えているところです。

【IC 霧ヶ峰観光商業会 藤原氏】

個人の所有地なので他人がどうこう言うことではないが、今後植林する計画があるようなら協議会で相談してやっていただけるとありがたいと思います。

先ほど登山道の整備の話があったが、山を歩く人がいっぱいいるので登山道を整備することは当たり前ですが、実は霧ヶ峰を訪れる人の大半は車で通る人です。しかし道路の整備はあまりされていません。今まではビーナスラインを通ると、ビーナスラインから下は全部見えました。それが今は何も見えません。そういったことを整備することも必要ではないでしょうか。今はオートバイの聖地として一般にも認知されているので、人が来てくれている間に道路整備もしていかないと、観光地としては二流になってしまうのではないのでしょうか。

【事務局：山本事務局長】

協議会としては自然保護と観光を両方考えながら進めているところです。

【IC 霧ヶ峰観光商業会 藤原氏】

先ほど霧ヶ峰を愛する会の方が静岡県立大学の話をされていましたが、40 年前から静岡大学の大学院の方がきて周氷河現象の研究していました。いまでも静岡大学の増澤教授が小和田牧野組合に協力してもらいニッコウキスゲを増やそうとしています。そういう方も呼んでいただいた方が色々分かるのではないかと思います。

【霧ヶ峰を愛する会 飯田氏】

私は、霧ヶ峰が森林化するのとは悪くないと思っています。昭和20年台に植えたカラマツがあるので切ってお金にしてほしいです。

【事務局：山本事務局長】

人工林については所有者が間伐するものと考えています。また、禁止されているものでは

ありませんが、自然公園法の申請は必要となりますので、環境課に相談していただきたいです。

【大窪座長】

4 その他に移らせていただきます。連絡事項等がございましたらお願いします。

(なし)

それでは、次回の開催予定について、事務局からお願いします。

【事務局：山本事務局長】

次回協議会は例年3月上旬あたりに開催を予定しておりますが、具体的な日程は決まり次第早めに皆様にご連絡させていただきますので、ご参加の程よろしくをお願いします。

【大窪座長】

以上で、本日の議事は全て終了となりました。これをもちまして議長の任を解かさせていただきます。スムーズな会議の進行にご協力いただき、ありがとうございました。

【事務局：山本事務局長】

大窪座長、ありがとうございました。以上をもちまして、第48回霧ヶ峰自然環境保全協議会を終了します。ありがとうございました。

閉会